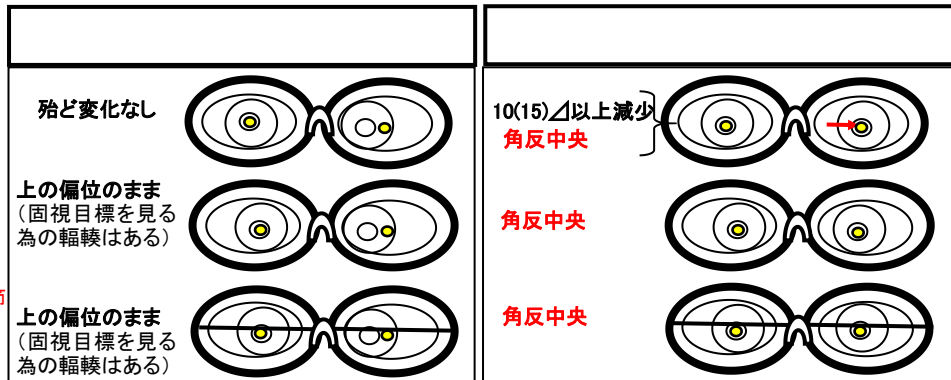




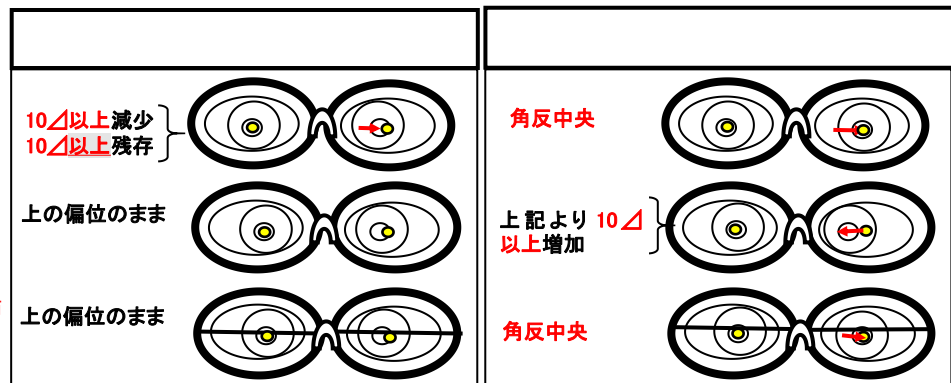
空欄に内斜視の
種類を記入！

例) 左眼内斜視

- 遠見 正視状態
完全矯正レンズ装用
- 近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用
- 近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用



- 遠見 完全矯正レンズ装用
- 近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用
- 近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

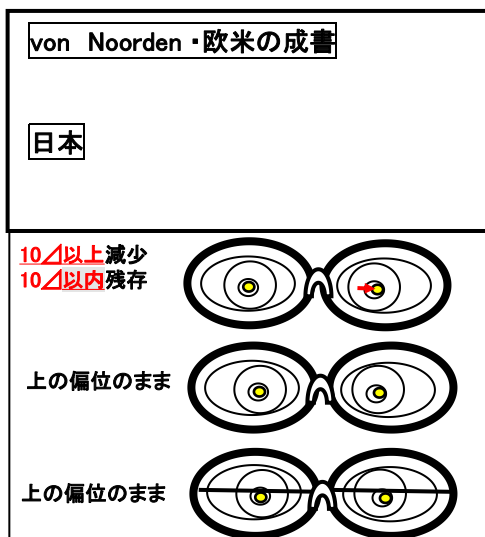


定義が曖昧なもの

von Noorden・欧米の成書

日本

- 遠見 完全矯正レンズ装用
- 近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用
- 近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用





遠視がある場合は $10 \sim 15^\circ$ 減少しても高 AC/A 比の可能性があり遠近ともほぼ同量減少し、眼位が改善するかで判断すること。

例) 左眼内斜視

遠見 正視状態
完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

非調節性内斜視(基礎型など)

殆ど変化なし

上の偏位のまま
(固視目標を見る
為の輻輳はある)

上の偏位のまま
(固視目標を見る
為の輻輳はある)



屈折性調節性内斜視(von Noorden)

10(15) $^\circ$ 以上減少
角反中央

角反中央

角反中央



近見は輻輳するので(輻輳角分)遠見より見かけ上、内斜してプリズム量が増加すると勘違いする人がいるが、近見の視標を見ている視線からの偏位となるので、偏位量は変わらず APCT の量としては理論上変化はない。



高 AC/A 比ならば、遠視があつて内斜視となつていた分は完全矯正レンズで解消するはず。

部分調節性内斜視(主流)

遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

10 $^\circ$ 以上減少
10 $^\circ$ 以上残存

上の偏位のまま

上の偏位のまま



非屈折性調節性内斜視(von Noorden)

角反中央

上記より 10 $^\circ$
以上増加

角反中央



定義が曖昧なもの



この要素がないと調節因子ではない。例) 15 $^\circ$ で眼鏡にて 9 $^\circ$ になった場合は調節性とは言えない。

見解が一致していない

von Noorden・欧米の成書

屈折性調節性又は準正位又は微小斜視

日本

屈折性調節性? 部分調節性?

欧米は大まか

遠見 完全矯正レンズ装用

近見 +3D 調節
完全矯正レンズ装用

近見 近見で無調節
+3.0D 付加レンズ装用

10 $^\circ$ 以上減少
10 $^\circ$ 以内残存

上の偏位のまま

上の偏位のまま



近見の所見から少なくとも高 AC/A 比ではないので、非屈折性調節性内斜視ではない。